

万葉びとの心と言葉の事典

井上辰雄著

万葉集に歌われている言葉や語句を一ページに一項目ずつ配して、丁寧な解説した大判の事典。取り上げられているのは、あられふる・ときじき・みななのわた・ゆくらゆくらに、など三百項目あまり。

この種の事典は、多数の研究者に数項目ずつ執筆を依頼して編纂するというのが一般的だが、本書は、古代史学者である著者がすべての項目を一人で執筆した労作である。この方法だと、万葉集の言葉に対する統一な視点が保てるために、内容の精粗や矛盾が生じにくい。もちろん、言葉や歴史や文化に対する広く深い見識と感性がなければ、とうてい成しえない仕事だ。先の「みななのわた」はタニシの内臓をさし、山上憶良

の長歌のほか数首の短歌や長歌に見いだされ、いずれも「か黒き髪（真っ黒な髪）」にかかる枕詞だというようなことを、歌を引きながら解説する。「あられふる」は鹿島や杵島きしまにかかる枕詞、「ときじき」は時を定めずの意、「ゆくらゆくら」は気持ちがゆらゆら揺れ動くさまをいう。

ゆったりと一項目一項目を味わい、万葉の言葉と心を楽しみたいという人にお勧め。(遊子館、1万5000円)